

日々新聞

於今嵐瑠寛なる人亡父嚴劔へ奉養厚きゆへ當年
 其上三田忌の正當にたりと以て己父江追書の爲に雲
 雀山中將姫の演劇と角の戲場に於て
 相勤めする實や此姫君の行狀殊に御西
 新御考長深くして総母の毒計と
 凌ぎ御辛分苦中幸て竟に苦提の
 要路に陥入し終ひたる日本無双の賢女
 あれば今亦華村屋又の傍と慕きて
 勤むるが如くも姫の至孝に習ひし
 實に文明開化孝順の一端

中將姫

嵐瑠寛

海老原

四月三日
 四月三日
 日教育のる
 二月。五十六軒
 三千五百十五軒

仙乃系画

